

特集「情報システム論文」の編集にあたって

神 沼 靖 子†

情報システム論文は、研究方法論、開発方法論など基礎的な理論に関するもの、情報システム開発・運用・利用・評価など現実フィールドに関係深い実践的なもの、情報システムの環境や対象に注目したものなど多彩である。しかも、組織・社会といった人的視点や基盤・応用といった科学・技術的視点との関わりの中でさらに複雑化している。

このような情報システム論文の書き方について、IS研究会は数年にわたって議論を繰り返してきた。その成果は「情報システム論文の書き方と査読基準の提案（永田守男，情報システムと社会環境 77-4，2001.6）」という形で公開している。特に論文評価と関連して、要素技術の適用における新規性、情報システム環境における有効性、会員に対する有用性、研究そのものの信頼性、論文記述の信頼性などが重要であることを明示している。

本特集号では、情報システムの分析・設計・構築・運用と利用、情報ニーズ、情報・データの管理などの理論と実際、情報システムと人間・組織・社会との相互関係、現実の情報システム開発事例、情報システム構築手法などに関して、利用者の視点を重視した実証研究や人文・社会科学との学際的分野などを対象範囲として公募した。

投稿された論文は、科学・技術からビジネスまで多岐にわたり、学際的な内容もかなり含まれていた。その対象も、医療、福祉、マルチメディアデータベース、教育・学習支援、地域コミュニティと多彩であった。投稿論文数は45件あり、うち採録された論文は12件であった。辞退論文が2件あったため、採録率は約28%である。採録率の低かった主たる理由として、サーベイや評価の不十分さ、信頼できる根拠や議論の進め方の不明確さなどがあるが、これらの詳細については近く学会誌にて総括する予定である。不採録論文にも大変興味深いテーマが多かったため、完成度を高めて再度投稿されることを期待している。

採録された論文は、「情報システムの理論」、「情報システムの開発と運用」、「社会・人間系の情報システム」とに分けて整理している。理論には、情報システム連携に注目したアーキテクチャをテーマとした1件があ

る。開発・運用には、Webサービスの自動化・統合化、Webアプリケーションの動的解析手法などWeb支援に関するもの、ウェアラブルコンピューティング環境でのナビゲーションプラットフォームの実現、ユースケースを用いた進捗管理の情報提供など、システム支援環境と手法に注目した4件がある。

社会・人間系の情報システムは、さらに①情報・データ・知識の管理をテーマとしたもの、②地域情報システムをテーマとしたもの、③組織活動を支える情報システムをテーマとしたものにとわけた。その内訳として、①には、オーサリングシステム、学習支援システム、医療支援システムなど、ユーザ視点を重視した3件、②には、地域支援に特化した2件、③には、組織活動に特化したシステム開発の2件がそれぞれ含まれている。

今回初めて、情報システム関連の特集号を実現することができた。本特集号の発行を機にして、情報システム論文への関心がさらに高まることを期待したい。

最後に、本特集号を出版する上でご協力いただいた編集委員、タイトなスケジュールの中で丁寧にまた公平に査読をしていただいた匿名の査読者、スケジュール管理をはじめ適切な支援をしていただいた学会担当者の方々に感謝の意を表します。

「情報システム論文」特集編集委員会

- 編集長
神沼 靖子（埼玉大学）
- 編集委員 [50音順]
阿部 昭博（岩手県立大学）
市川 照久（静岡大学）
魚田 勝臣（専修大学）
金田 重郎（同志社大学）
竹林 洋一（静岡大学）
辻 秀一（東海大学）
刀川 眞（NTT データ）
樋地 正浩（日立東日本）
細野 公男（慶應義塾大学）

† 埼玉大学